

## 【令和5年度実績】

### 1. 教育(学部) : 多分野・国際連携による高度専門人材の育成

「教育」

No.10 (1)-3 先進的 ICT を活用した教育基盤の構築, No.31 (3)-1 地域医療への貢献と社会の要請に応える医療人材の育成

実績報告

・歯学教育のカリキュラム改革([資料1.pdf](#))

臨床実習における歯学生の歯科医業が法的に位置づけられることにより、実践的な診療参加型臨床実習の充実と、卒前教育の更なる質の向上を図るため、令和5年度の2年生から新カリキュラムを年次進行で採用する方針を立て、カリキュラム設計・改革を行った。新カリキュラムはアーリーモチベーションエクスポージャープログラムの構築・充実、基礎科目と臨床科目の連携の重視、臨床実習期間の前倒し、および国家試験対策の導入、アントレプレナーシップ教育を導入しキャリアパスを明示しつつ、多様なニーズに対応できる歯科医師の育成を行っている。さらに、基礎系科目と臨床系科目の合同講義を新設し、基礎と臨床の知識の連結・整理を行っている。本カリキュラム改革により、基本的な知識を身に付けさせるとともに「発想や工夫を、積極的に社会への貢献や理想とする(健康長寿)社会の実現に生かそうとする意欲を育て」、「その実現に向けての自分のあり方を考え」、「発想や工夫する力を高め、自己の持つ理想を実現することの喜びを実感させる」ことを目指す。

・入試における取り組み([資料2.pdf](#))

2023年度は全国における東北大学入試説明会での歯学部からの参加を増やし、歯学部に対する理解と出願者数の向上を強化してきた。さらに、AO入試制度の再設計により、AO II期とAO III期の入学定員の再設定により、優秀な学部学生の確保も強化できた。これらの取り組みにより、2024年度一般前期入試の倍率は3.9倍と2023年度一般前期入試の3.6倍より有意に向上し、優秀な学生確保が可能となった。

・専門教育および歯科医師国家試験対策の強化([資料3.pdf](#))

2022年度から歯科医師国家試験対策強化にも取り組んでおり、昨年度の歯科医師国家試験の合格率は一昨年度より1割以上向上しており、今年度も更なる向上を見込んでいる。さらに、学部教育において、アクティブラーニング、ハイブリット教育を強化したことにより、学生達の学習効果の向上に繋がった。また、アドバイザー教員制度強化し、出身地域・出身校を基本にしたアドバイザー教員配置に注力し、学習支援のみならず学生生活面におけるサポートも強化され、学生達が安心して勉学に取り組む環境整備ができた。2024年度から共用試験(CBT、OSCE)の公的化に対応すべく、共用試験対策講義、それに伴うカリキュラム改革も強化している。

・国際連携による歯学教育のDX・グローバル化([資料4.pdf](#))

2022年度から東北大学－国立陽明交通大学国際ジョイントラボラトリーへの参画により、国際産学官連携のもと先端的なXR技術・AI技術・IoT技術等を有効に活用し、ヘルスケア&エデュケーションDXを強力的に推進している。2023年度は、異分野国際連携による共同研究開発により、インタラクティブ技能教育プラットフォームのプロトタイプの開発が完了に、連携企業と連携し、実用化に向けて取り組んでいる。これにより、学習者本位の教育や学びの質の向上をもたらす教育DXを実現すると共に、ヒューマンウェルビーイングを可能とするヘルスケアDXの実現を強力的に推進している。また、学部学生対象とした短期留学プログラムの継続と充実化による学部学生の国際視野の涵養を強化し、マルチモーダルなグローバル専門人材の育成に注力している。さらに、2023年度から東北大学MOOCへの参画により、歯学関連専門科目の海外提供を可能とし、海外からの留学生受け入れ強化、優秀な人材確保を強化している。

 [資料1.pdf](#),  [資料2.pdf](#),  [資料3.pdf](#),  [資料4.pdf](#)

## 2. 国際卓越研究大学を視野に入れたマルチモーダルなグローバルリーダー育成

「教育」

No.01 (1)-1「高等研究機構」を頂点とした横断的分野融合研究を戦略的に推進するための三階層「研究イノベーションシステム」の一層の充実, No.02 (1)-2 卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化, No.14 (3)-1 あらゆる境界を越え、創造的で活力のある研究者・高度専門人材を育成する大学院教育の展開, No.16 (4)-1 世界から学生を惹きつける最先端の国際プログラムの開発・提供等, No.23 (3)-2 卓越した研究を基盤とした産業界等との共創教育の展開

### 実績報告

・令和3年度の採択された文部科学省「大学の世界展開力強化事業－CAMPUS Asia Plus in Dentistry Program」を基軸としたマルチモーダルグローバル人材育成を強化し、大学院教育における世界初の文理異分野融合カリキュラムを開発し、海外連携校間で共同講義を実施した([資料1.pdf](#))。これらの取り組みは受講者・在学生から高い評価を受けている。

・歯学研究科ではアジア型デンティストリーの確立と普及を推進すべく、アジア型デンティストリーコンソーシアムの構築による大学院教育を推進している。それに代表される国際共同教育の一環であるダブル・ディグリー(DD)プログラムの実施を強化し、2023年度はインドネシア大学とのDDプログラムを設置し、アジア連携校9校とのDDプログラム設置を完成し、アジア型デンティストリーコンソーシアムの構築を実現した([資料2.pdf](#))。

・2023年度は高度専門人材育成における教育プログラム強化を推進し、DDプログラムに代表される基礎研究強化のみならず、国際専門医コースも新設し、歯科補綴学、口腔外科学など、専門分野における人材育成にも強力的に取り組んでいる([資料3.pdf](#))。これにより、大学院教育における基礎研究と臨床教育の有機的融合を実現している。

・2023年度にも国際共同シンポジウムの開催を継続し、大学院生の研究成果発表の場として提供している。2023年度は二国間・連携校間のみならず、世界最大の歯学専門学会であるIADR(International Association for Dental Research)と連携し、共同シンポジウム開催するなど、歯学研究科の取り組みが徐々にグローバル展開を実現している([資料4.pdf](#))。

・2023年度から国際連携プログラムの自走化を実現すべく、国際交流プログラム費徴収システムを構築し、得られた収入をもとに、プログラムの充実化、大学院生サポートシステムの強化を行っている([資料5.pdf](#))。

・歯学研究科の上記の取り組みは高く評価され、文部科学省「大学の世界展開力強化事業－CAMPUS Asia Plus in Dentistry Program」は 2023 年度中間評価において S 評価をいただき、本研究科のグローバル人材育成における取り組みが評価される事となった([資料 6.pdf](#))。

[資料 1.pdf](#), [資料 2.pdf](#), [資料 3.pdf](#), [資料 4.pdf](#), [資料 5.pdf](#), [資料 6.pdf](#)

---

### 3. インターフェイス口腔健康科学(IOHS)を基盤とした研究の世界展開力強化

「研究」

No.03 (2)-1 戦略的産学共創の展開, No.14 (3)-1 あらゆる境界を越え、創造的で活力のある研究者・高度専門人材を育成する大学院教育の展開, No.18 (1)-1 自由な発想に基づく基礎研究の推進および新興・分野融合研究の開拓, No.19 (1)-2 データ駆動型研究とオープンサイエンスの展開, No.32 (3)-2 新規医療イノベーションの創出

**実績報告**

・2002 年に歯学研究科がインターフェイス口腔健康科学(IOHS)を提唱して以来、異分野融合・連携研究を進めてきた([資料 1.pdf](#))。歯学イノベーションリエゾンセンターの機能強化により([資料 2.pdf](#))、研究における学内の連携のみならず、学外、国際連携も強化しており、全学の国際共同研究プロジェクトにも参画するなど、研究活動を活発させている([資料 3.pdf](#))。

・IOHS の理念を学部・大学院教育に活かすべく、2020 年から始めた「歯学イノベーションリエゾン」を創出するマルチモーダル人材養成プログラム」および 2021 年から開始した「アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成プログラム」を強力的に推進し、大学改革推進等補助金や研究拠点形成費等補助金などとの相乗効果により([資料 4.pdf](#))、大型競争的外部資金の獲得、共同研究講座の設立を実現し、研究力強化に寄与している([資料 5.pdf](#)、[資料 6.pdf](#))。

・歯学イノベーションリエゾンセンターの機能を強化し、研究業績分析、外部資金分析、研究マッチングなど URA 機能強化により、研究科機能強化に取り組んでいる([資料 7.pdf](#))。

[資料 1.pdf](#), [資料 2.pdf](#), [資料 3.pdf](#), [資料 4.pdf](#), [資料 5.pdf](#), [資料 6.pdf](#), [資料 7.pdf](#)

---

### 4. 社会との共創(産学官連携)

「社会との共創」

No.03 (2)-1 戦略的産学共創の展開, No.18 (1)-1 自由な発想に基づく基礎研究の推進および新興・分野融合研究の開拓, No.20 (2)-1 社会の要請に応える研究の推進, No.21 (2)-2 多様な研究力を引き出す研究支援機能の充実・強化, No.28 (2)-1 国際共同利用・共同研究拠点及び共同利用・共同研究拠点の機能強化

**実績報告**

・歯学研究科では、2002 年に提唱した次代の歯学概念「インターフェイス口腔健康科学(IOHS)」のもと、個別の研究シーズを繋ぎ、関連領域との学際的研究を促進するインターフェイス口腔健

康科学学術フォーラムを定期的を開催し、2023年度は通算18回開催するなど、教育研究における産学連携の強化を推進している([資料 1.pdf](#))。

・異分野連携教育・研究取り組みである歯工連携イノベーション機構(IDEA)と「革新的食学」プロジェクトのもと、若手研究者交流プログラムの継続とともに、合同研究ミーティング開催、共同研究スタートアップ支援強化を通し、生体医工学共同研究拠点事業共同研究費14件獲得、革新的食学拠点スタートアップ支援事業7件獲得するなど、研究成果を社会に還元する連携プラットフォームの構築を実現した([資料 2.pdf](#)、[資料 3.pdf](#))。

・2023年度は異分野連携共同研究の推進も精力的推進し、歯科治療における感染症予防対策に関する研究を行い、物質・デバイス領域共同研究拠点事業・新型コロナウイルス対策共同研究に採択されるなど、一定の成果を上げている([資料 4.pdf](#))。

・2023年度も引き続き東北大学-台湾陽明国立交通大学国際ジョイントラボラトリープロジェクトに参画し、国際産学官連携のもと先端的なXR技術・AI技術・IoT技術等を有効に活用したヘルスケア&エデュケーションDXへの取り組みを強化し、グローバル産業展開を目指している([資料 5.pdf](#))。

 [資料 1.pdf](#),  [資料 2.pdf](#),  [資料 3.pdf](#),  [資料 4.pdf](#),  [資料 5.pdf](#)

---

## 5. 社会との共創(社会連携)グローバルネットワーク

「社会との共創」

No.02 (1)-2 卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化, No.06 (2)-4 「社会とともにある大学」としての社会連携の強化, No.07 (2)-5 戦略的ファンドレイジングの展開と支援者とのネットワーク強化, No.20 (2)-1 社会の要請に応える研究の推進, No.44 (1)-2 東北大学ブランドを高めるための戦略的広報の強化

### 実績報告

・2023年度は研究成果のプレスリリースが14件と昨年度より大幅に増加した([資料 1.pdf](#))。さらに、研究成果の社会インパクトにおいて、国際的に認可されて、歯学研究科の社会への貢献は国内のみならず、国際的に認められる事になった([資料 2.pdf](#))。

・歯学研究科は長年、口腔保健知識の普及に尽力しており、2023年も宮城県内の小中高校における活動を継続しており、口腔保健向上に貢献している([資料 3.pdf](#))。さらに、社会貢献を強化すべく、新型コロナウイルスパンデミックにおける感染対策にも取り組んでおり、社会から高い評価を受けている([資料 4.pdf](#))。

・2023年度は行政における人材交流、提言を強化すると共に、中学校からの歯学知識の普及に尽力し、早期における優秀な学生確保に取り組んでいる([資料 5.pdf](#))。さらに、研究成果の実用化も強化しており、2023年度は歯学研究科発の研究成果が製品発売に繋がるなど、社会的な取り組みは実を結んでいる([資料 6.pdf](#))。

 [資料 1.pdf](#),  [資料 2.pdf](#),  [資料 3.pdf](#),  [資料 4.pdf](#),  [資料 5.pdf](#),  [資料 6.pdf](#)

---

## 6. 教員の研究時間確保

「教員の研究時間確保」

No.25 (4)-2 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを尊重する「共同参画」体制の構築,  
No.46 (1)-2 全学 DX によるデジタル・キャンパスの推進

### 実績報告

・本研究科では、全ての構成員が働きやすい環境、魅力ある職場作りを重視しており、出産、育児と休職制度の活用により、男女問わずの産休・育休取得を推奨している。さらに、ワークライフバランスを考慮した職場作りにも専念しており、教育、研究、臨床、社会貢献における優秀者の表彰制度を 2023 年度に導入し、教職員のモチベーション向上を実現している。

・歯学イノベーションリエゾンセンターの機能強化により、先端教育開発部門、国際連携推進部門の研究科におけるサポート体制が更に強化され、学部教育、CBT、OSCE に代表される公用試験の体系的サポート、留学生受け入れ、国際共同研究・教育に代表される国際交流プログラムのマネジメントにより、研究者の研究時間確保に確実に貢献している。

・2023 年度から必要に応じて代員を部局人件費枠内での年俸制教員として採用する制度を整備し、各分野の教育研究に支障が無いよう、サポート体制を強化した。

・会議時間短縮に取り組んでおり、会議時間は 30 分を基本とする、教授会は、審議事項および重要な報告事項以外は資料提示のみし、更に個々の事項の審議時間を記すことにより、会議全体にかかる時間の短縮を実現し、教員の拘束時間減少を進めている。

・教員のモチベーション向上や国際共同研究の推進・強化等を目的とした、サバティカル制度導入の検討を開始した。2023 年度は先行事例を基に検討し、内規案を作成した。